

コロナ禍における退院支援 第2回アンケート調査報告

2021年2月18日

佐倉市在宅医療・介護多職種連携研修会

「コロナ禍における退院支援」

さくら風の村訪問診療所

三嶋 泰之

アンケート調査の目的

新型コロナウイルス感染症の影響により、病院や高齢者施設での面会制限が続いています。退院してきた方を受け入れる在宅医療・介護の側で様々な問題が生じるようになりましたが、逆に病院側ではどのようなになっているかの状況を把握する目的で昨年11月に近隣医療機関を対象にアンケート調査を実施致しました。その結果判明したことから、さらに気になる点が生じたため再度アンケート調査を実施するに至りました。

この2回のアンケート調査から、コロナ禍においても病院とスムーズに連携ができるような方法を見出せることを期待します。

アンケート調査の方法

佐倉市及び近隣の医療機関に対して、2月2日にFAXでアンケート用紙を送付、FAXでの回答を依頼した。

FAXでの回答がなかった医療機関に対しては、電話をかけ口頭で回答を頂戴した。

アンケート送付先

佐倉市(6)

佐倉中央病院、佐倉厚生園病院、聖隷佐倉市民病院、佐倉整形外科病院、
東邦大学医療センター佐倉病院、南ヶ丘病院

成田市(4)

成田赤十字病院、成田病院、国際医療福祉大学成田病院、成田リハビリテーション病院

八街市(3)

新八街総合病院、長谷川病院、海保病院

印西市(4)

日本医科大学千葉北総病院、印西総合病院、西佐倉印西病院、セコメディック病院

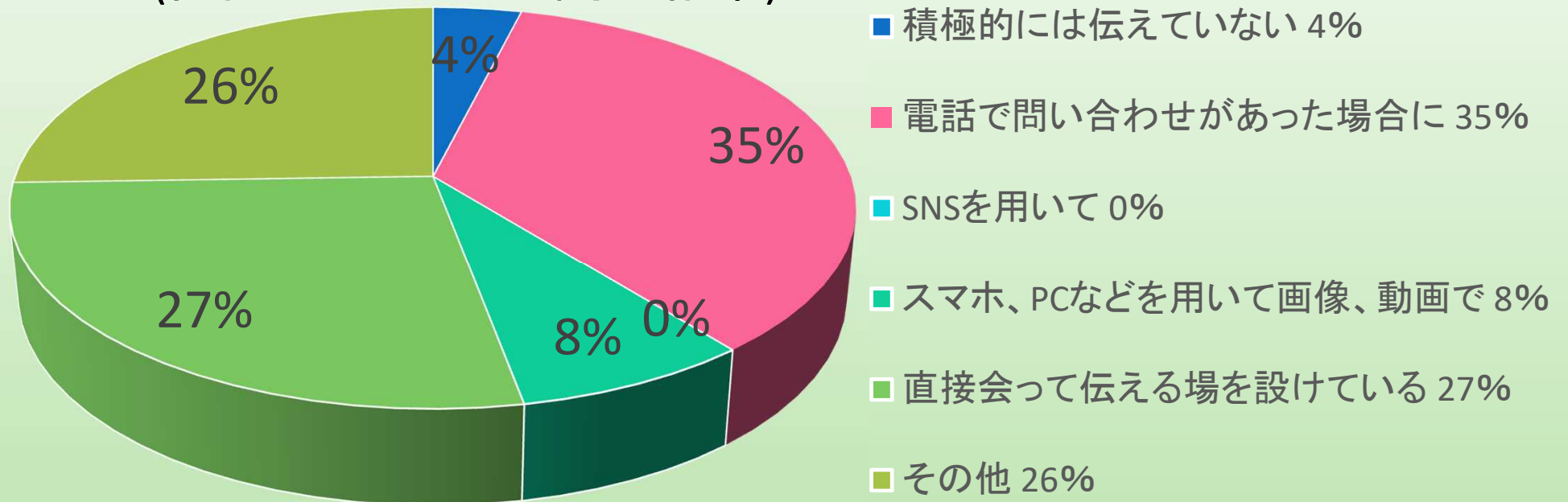
その他(6)

千葉しすい病院、成田富里徳洲会病院、下志津病院、四街道徳洲会病院、
栗山中央病院、北総栄病院

アンケート内容

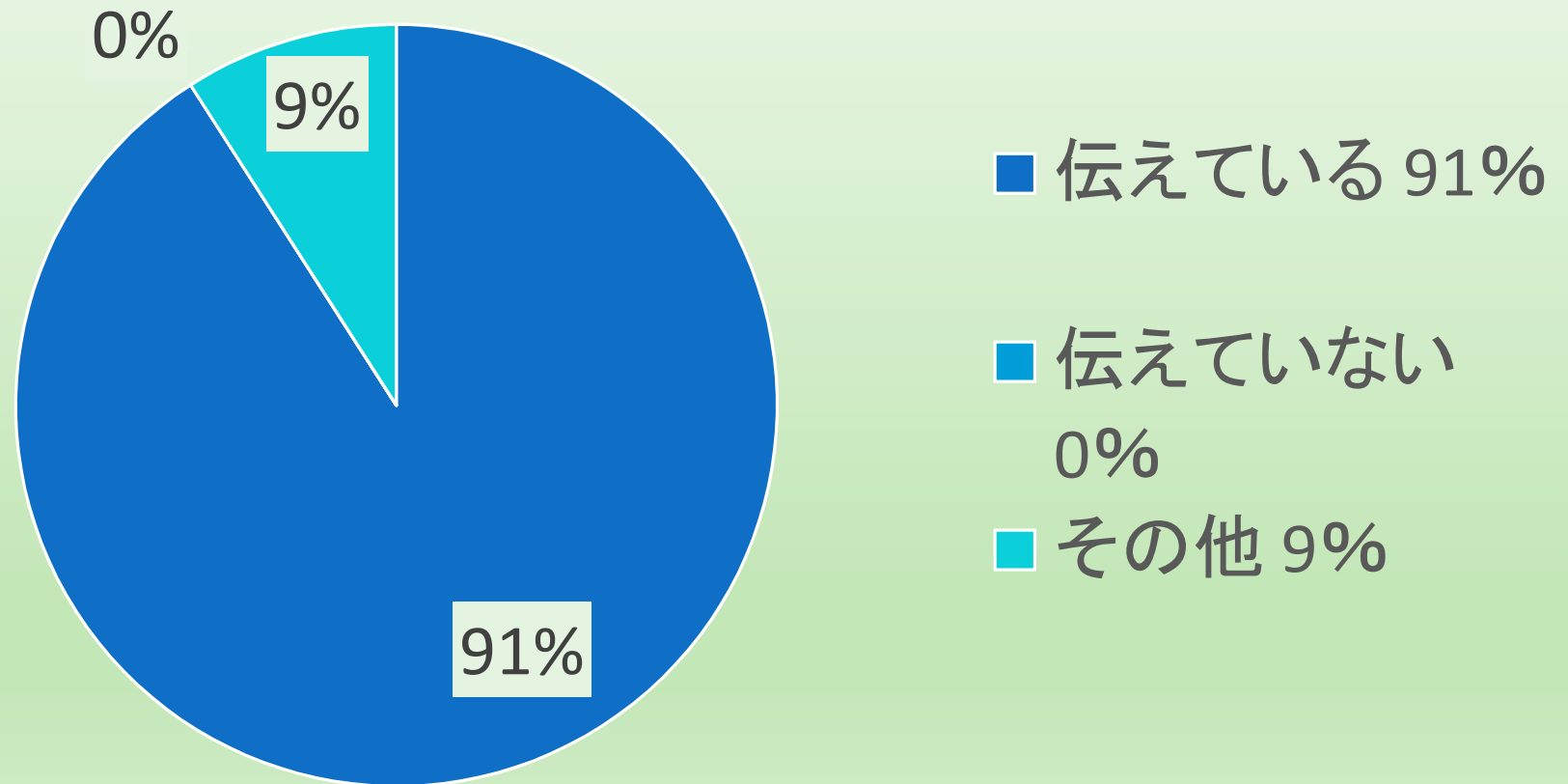
1. 家族に対する入院患者の情報伝達
2. 病院へ電話してもいい時間帯
3. 退院時のカンファレンスのオンライン対応
4. 患者の意思や家族の意向が分からなくて困ったこと

家族に対する入院患者の情報伝達 (前回のアンケート調査結果)

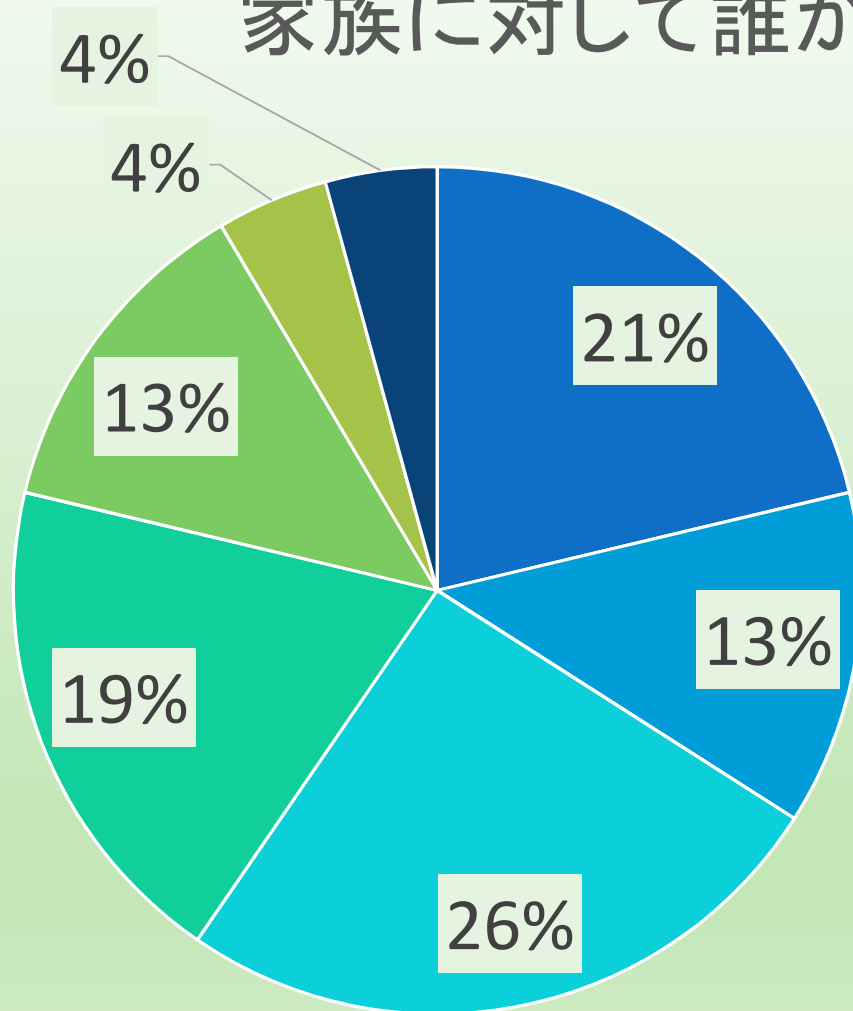


⇒病院側が積極的に情報伝達しようとしていることが判明

1. 入院患者に関して**家族から**電話があった場合、情報を伝えていますか。

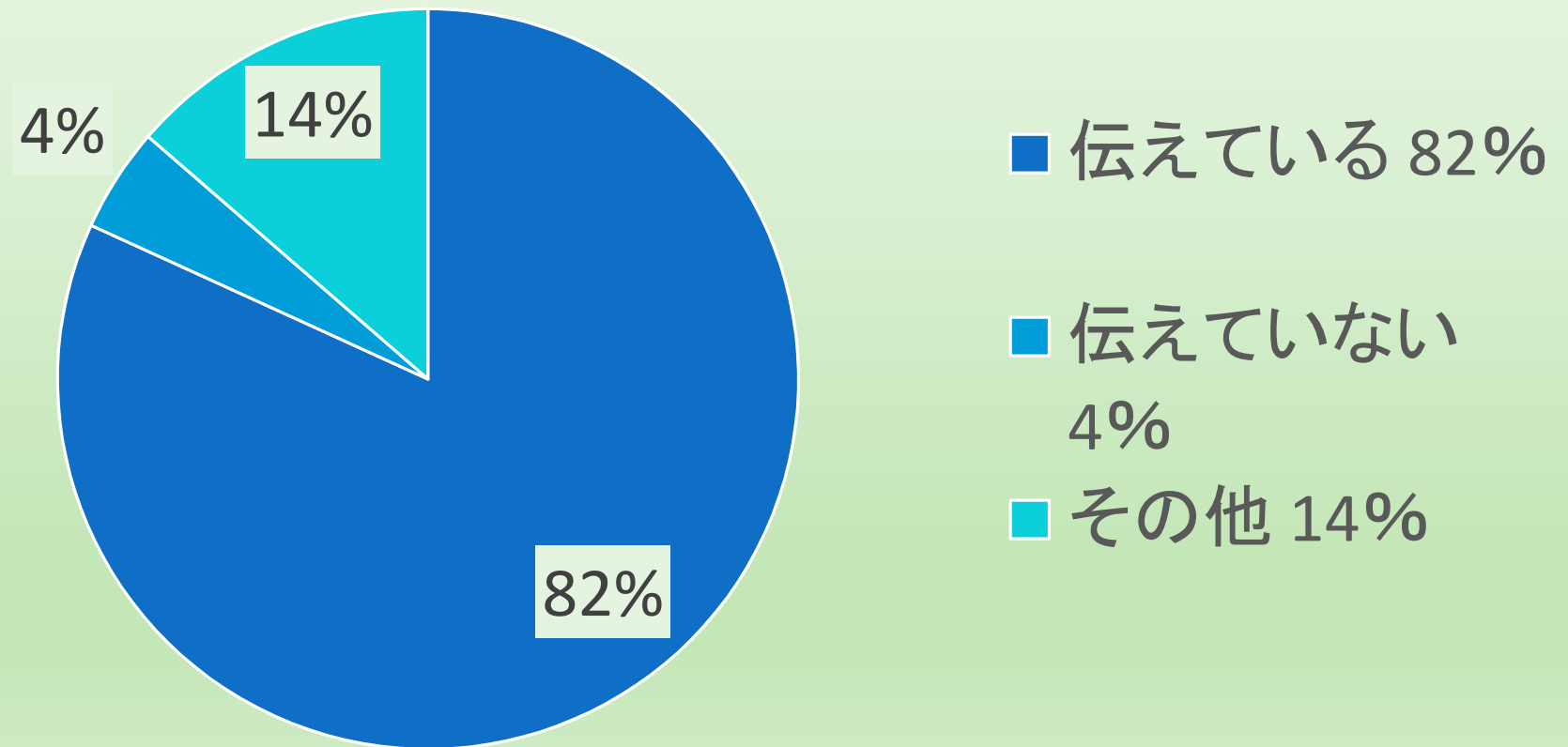


家族に対して誰が伝えているか

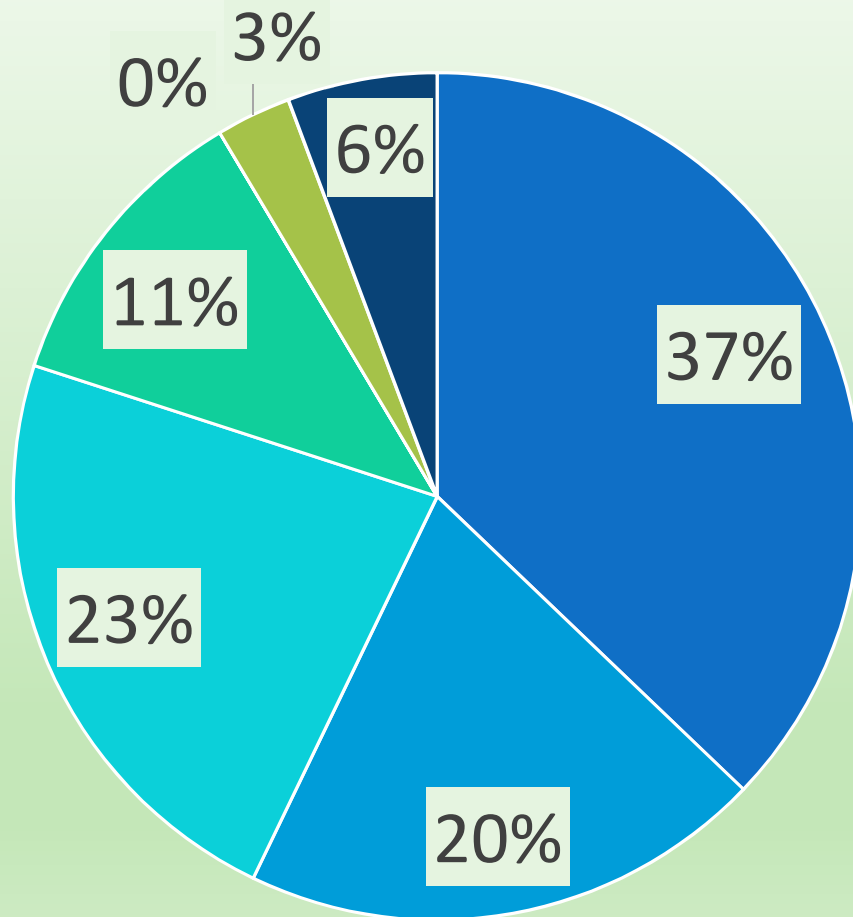


- MSW 21%
- 退院調整看護師 13%
- 病棟担当看護師 26%
- 病棟師長 19%
- 担当医(主治医) 13%
- 電話を受けた者 4%
- その他 4%

1. 入院患者に関してケアマネから電話があった場合、情報を伝えていますか。

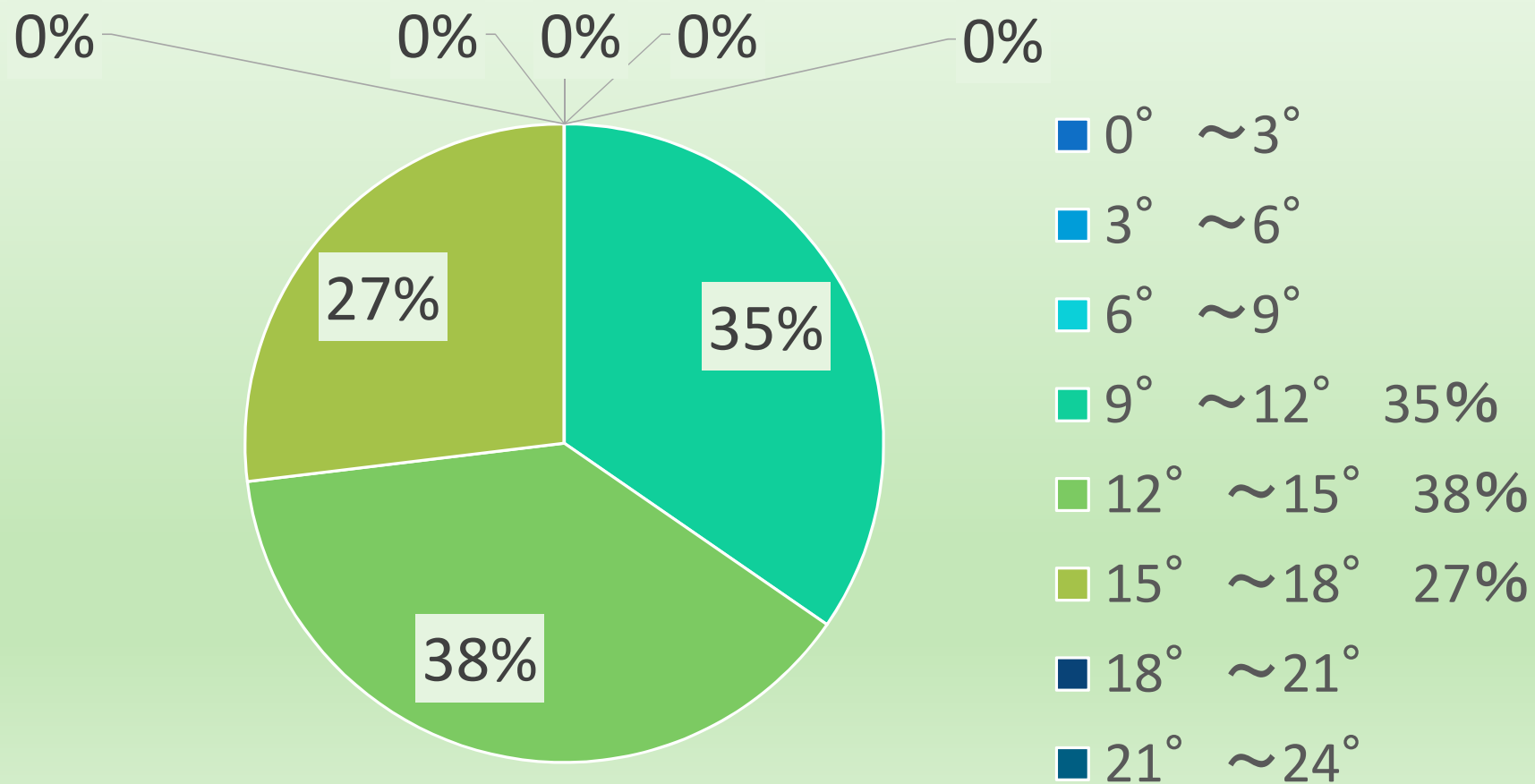


ケアマネに対して誰が伝えているか

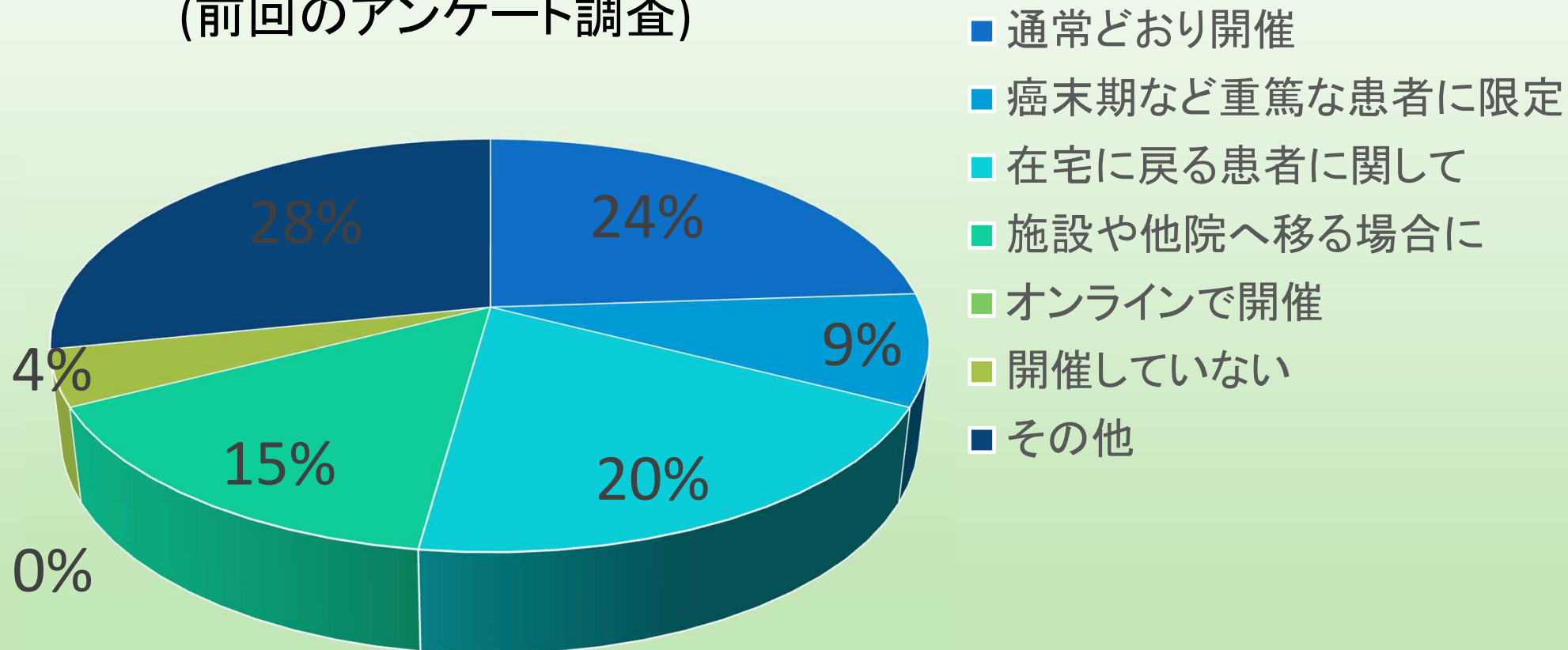


- MSW 37%
- 退院調整看護師 20%
- 病棟担当看護師 23%
- 病棟師長 11%
- 担当医(主治医) 0%
- 電話を受けた者 3%
- その他 6%

2. 病院へ電話をかけてもいい時間帯はいつですか。

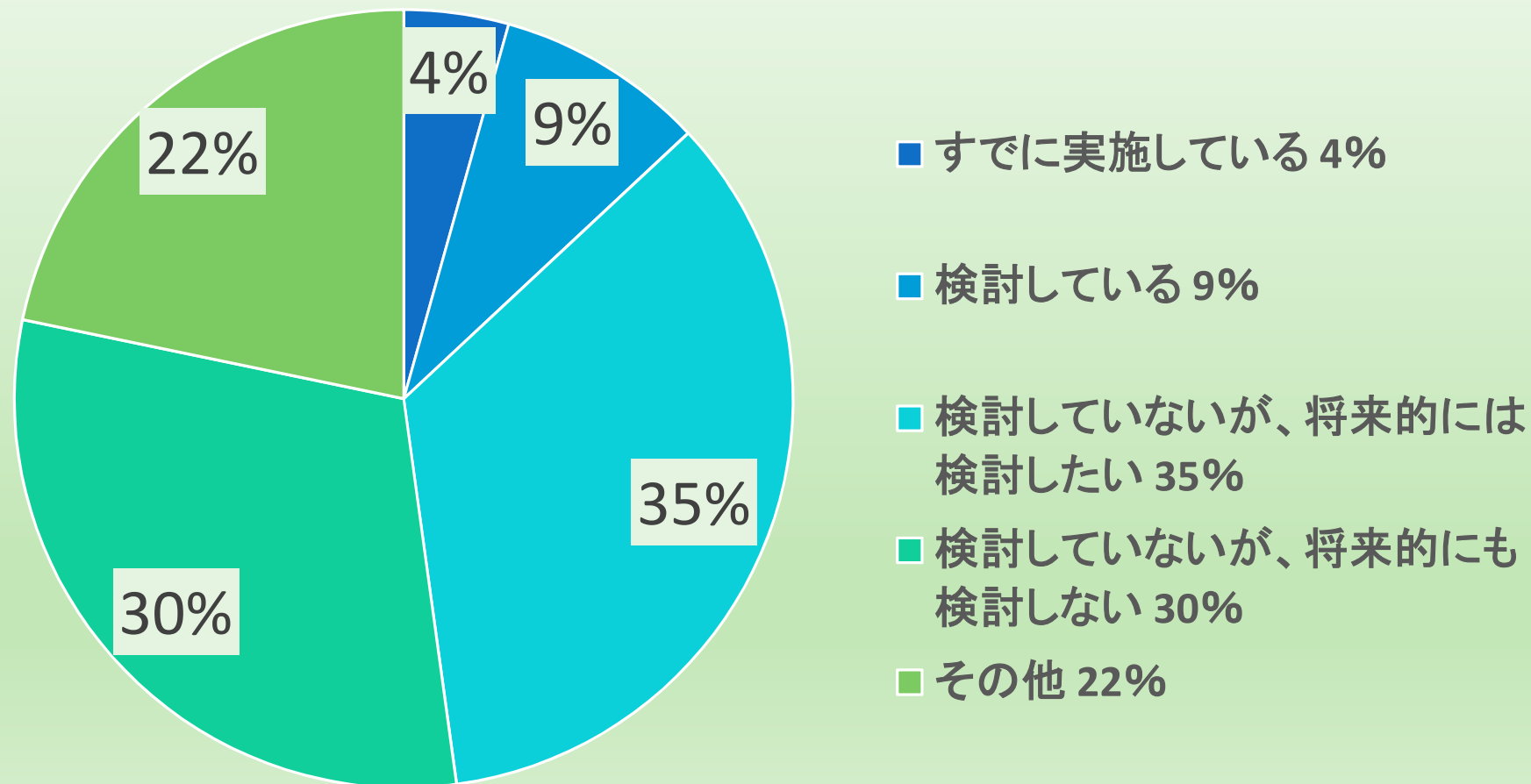


退院に際してのカンファレンス (前回のアンケート調査)

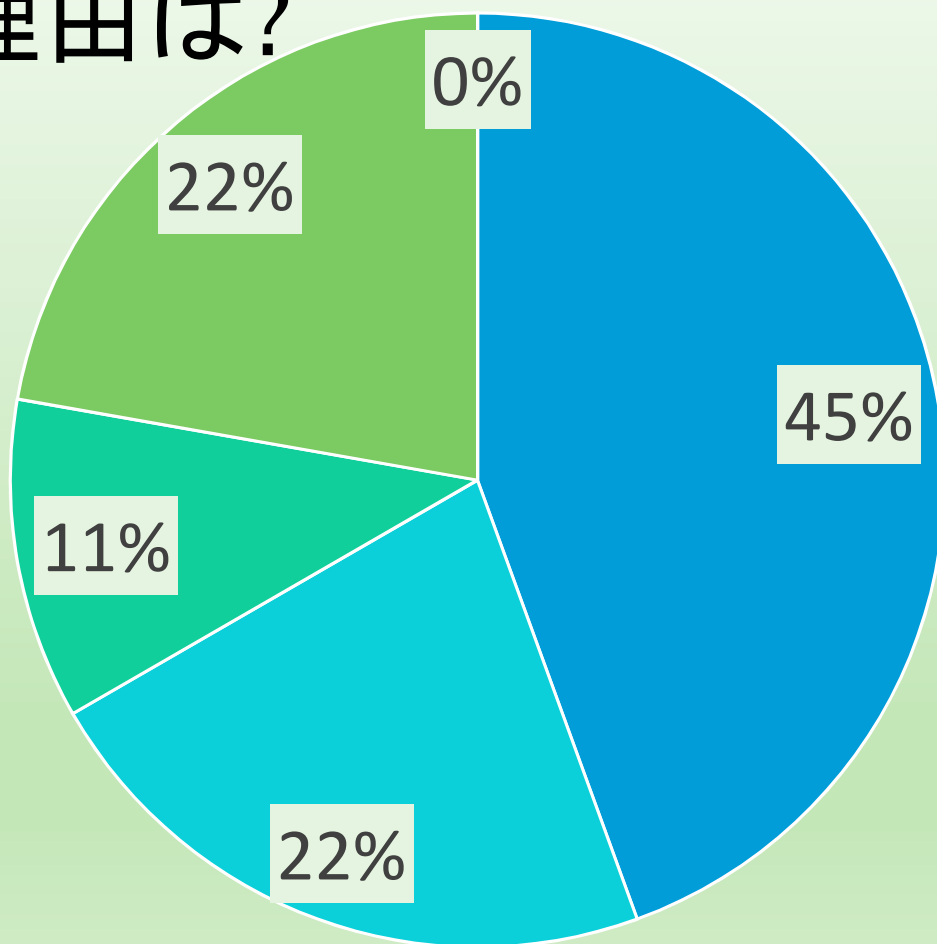


⇒コロナ禍でも病院側は退院に際して積極的にカンファレンスを開催していることが判明。オンラインでの開催がゼロというのは予想外。

3. 退院に際するカンファレンスの手段としてオンラインは検討していますか。

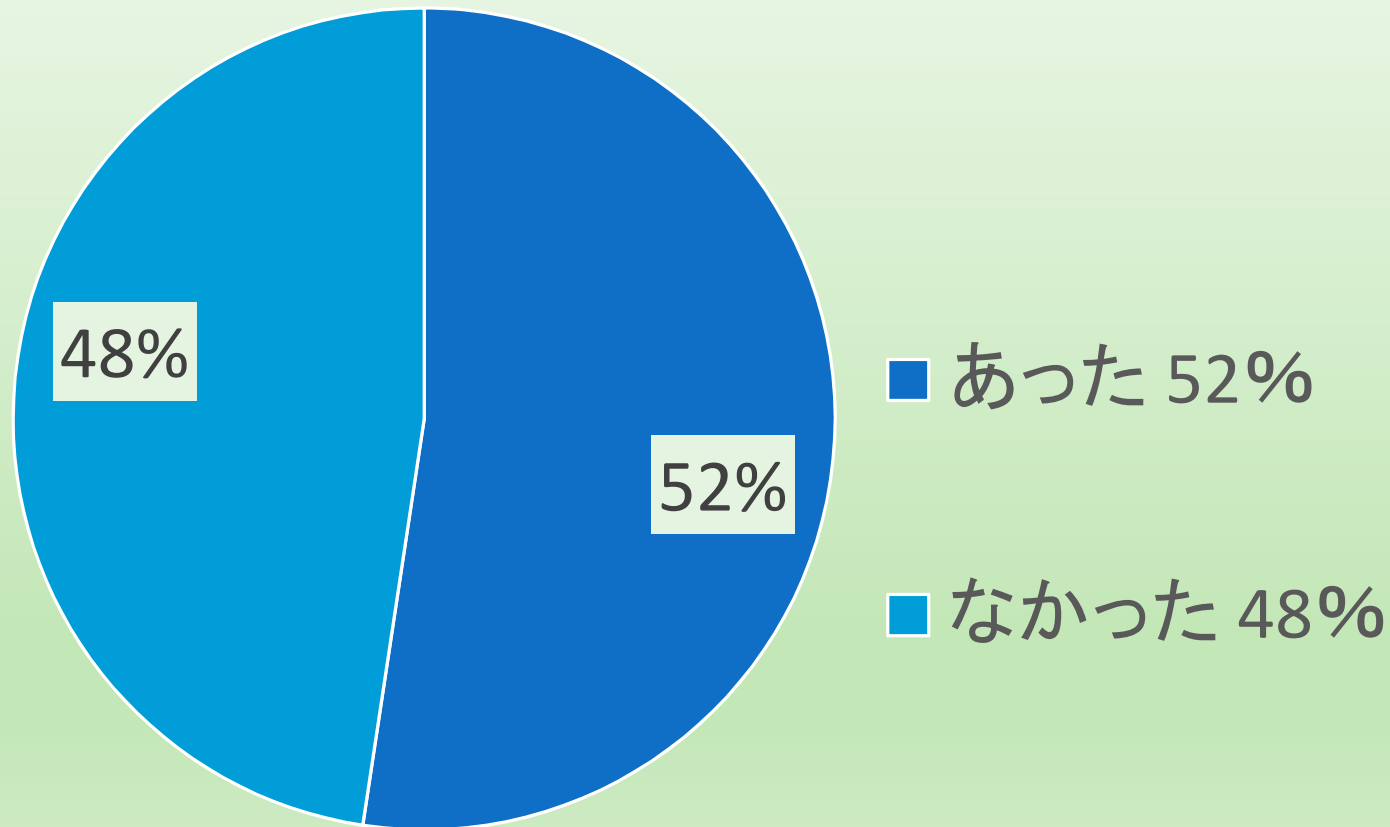


「検討していないが、将来的にも検討しない」理由は?



- 個人情報保護の問題 0%
- 病院側の通信機器が整っていない 45%
- 患者側の通信機器が整っていない 22%
- ノウハウがない 11%
- その他 22%

4. 患者の意思や家族の意向が分からず、 実際困ったことはありましたか。



まとめ(情報伝達)

- 家族からの電話でもケアマネからの電話でも、病院側は情報伝達に積極的
- 家族に伝えるのは看護師が過半数(58%)
- ケアマネに伝えるのも看護師が過半数だが(54%)、MSWも多い(37%)
- 主治医は家族には伝えているが(13%)、ケアマネには伝えていない(0%)

まとめ(病院への電話)

- いわゆる日勤帯(9:00~17:00)であれば、ほぼ全ての医療機関は電話対応可能
- よほどのことがなければ18:00~翌9:00までは避ける
- 病院によって最適の時間帯はまちまちであるので、折り返しの電話あるいは掛け直しとなることは仕方ないと考える

まとめ(退院カンファレンスのオンライン対応)

- 前向きに検討している医療機関が多い(48%)
- オンライン対応に消極的な理由は通信機器整備状況の問題が最も多い(67%)
- あくまで代替手段と考えている医療機関もある(直接会って話すことに重きを置いている)

まとめ(困ったこと)

- 病院側として困ったことの有無は半々

考察1

- 医師からの情報が必要な場合は、ケアマネではなく家族が電話したほうが良い。
- 電話対応のほとんどが看護師となるので、看護師の忙しそうな時間帯を避けて電話すると良い。
- カンファレンスのオンラインは現実問題としてほとんどの医療機関が対応していないので、必要時は病院へ足を運ぶ必要がある。
- 患者の意思や家族の意向が分からなくても、病院側としては困ったことがないのが半数。在宅側は情報不足で圧倒的に困ってるという印象なので、大きなギャップがある。病院は積極的に情報を伝えようとしているし、また電話していい時間がないと回答した病院もないので、在宅側から積極的に病院へ電話をかけても構わないのではないか。

考察2

- コロナ禍にあっても、病院側は情報伝達に積極的。
- 在宅側で必要な情報が何かを病院側が認識していない可能性がある。
- コロナ禍で病院と在宅の連携が困難になったのではなく、もともとの連携の希薄さが浮き彫りになった可能性もある。
- コロナ禍云々ではなく、積極的に病院側へ在宅側の情報を発信することが必要。

これらとは別に...誰がいつ新型コロナウイルスに感染してもおかしくない状況。感染した人を差別しないためには、正確な知識を習得することが欠かせない。それが結果としてコロナを広げないことにつながる。

ご清聴ありがとうございました

お忙しいなか
2回目のアンケートにご協力くださいました
全ての医療機関の皆様に
心より感謝申し上げます

2月10日撮影 佐倉の夕焼け